

Title	元末の群雄とベトナム：陳友諒・朱元璋に関する大越史記全書の記事
Sub Title	Relations between China and Vietnam during the late years of the Yuan (元) period
Author	和田, 博徳(Wada, Hironori)
Publisher	三田史学会
Publication year	1978
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.49, No.1 (1978. 7) ,p.68- 68
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究余滴
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19780700-0068

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「四四頁より続く」

で、中国の湖北省に永く居住して亡くなったので、同じ湖北省出身の陳友諒にとって、右の如き詐称を行なうのに一層都合が良かったと思われる。

大越史記全書を見ると、大治四年 元至正二
十一年 (1361) 二月

の条にも、「陳友諒退居武昌、使人来乞師、不許。」とあり、朱元璋と戦って敗れ、湖北省の武昌へ退いた陳友諒がベトナム陳朝へ遣使して救援の出兵を乞うたのに対し、陳朝ではこれに応じなかったと伝えている。このように陳友諒は強敵の朱元璋と争うに当り、ベトナム陳朝の援助を請うために、自分が陳朝の一族であるという詐称を行なって遣使する必要があったものと考えてよいであろう。またベトナムへ遣使できた事実によって、陳友諒の勢力範囲は、これまで中国史料で知られていた湖北・湖南・江西などの華中の揚子江流域だけでなく、更に広くベトナムに隣接する嶺南地方へも及んでいたらしいことが窺われよう。

以上の如く、陳友諒が陳益稷の子と詐称してベトナム陳朝へ遣使し、友好関係の樹立に努め、陳朝の援助を得て朱

元璋等の群雄および元朝と対抗しようとしたことや、その勢力範囲が嶺南地方にまで及んでいたらしいことなどは、元末の重要な興味深い史実であるが、これらの史実は中国史料には全く見えなくて、ただベトナムの大越史記全書によってのみ知られるのである。

この外、なお大越史記全書のみが記す元末の群雄に関する記事を挙げると、紹豊十五年 元至正
十五年 (1355) 九月の条に、

「元朱徳裕称帝、即明
太祖 後更名元璋。」とある。しかし、朱

元璋の原名が朱徳裕であったということは、中国史料には全く見えないので、呉晗氏の名著『朱元璋伝』にも「朱元璋、原名興宗、小名重八。」(同書二頁)と述べてあるだけである。従って、朱元璋の原名が朱徳裕であったか否かの真偽は俄かに決定し難い問題であるが、これもベトナム史料によってのみ伝えられた貴重な記事の一つであることは疑ないであろう。